

インターバンクの声（2016年6月15日）

昨晚のロンドン市場は、序盤のドル/円の値動きからは、いよいよ5月3日に付けた105円50銭台の安値突破を試しに行くのではないかと感じられた。東京市場では午後以降、105円台に下落してから何度も辛うじて106円台には戻していたものの、それ以上大きくドルが反発することがなく、いよいよ今年ドル/円は最安値更新への圧力が増している雰囲気だった。しかし、ロンドン市場が始まってから2時間余りの間、二度ほど105円60銭台までドルが売られる場面があったが、そこでどうにか耐えきってしまった。最安値更新へのエネルギーが足りなかったのか、その後はニューヨーク市場が引けるまで106円を跨いで上下の値幅が限られた相場に終始した。市場を揺るがしている英国の欧州連合（EU）からの離脱問題だが、昨日は英新聞2社がいずれもEU離脱支持者が増えているとの最新の世論調査結果を伝えたが、離脱支持派のリードが拡大したわけではなく、市場もこの世論調査ネタには少し飽きが来ている部分もあったようだ。ただ、実際に英国がEUから離脱することになれば世界経済は恐慌に向かうとする評論家も多く、今は国民投票日前の単なる「嵐の前の静けさ」の中にいるに過ぎないのかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。